

**平成 28 年度新宿区外部評価委員会第 2 部会  
第 6 回会議要旨**

**<開催日>**

平成 28 年 8 月 8 日（月）

**<場所>**

本庁舎 6 階 第 4 委員会室

**<出席者>**

外部評価委員（4 名）

山本卓、小林浩司、藤岡聡子、鱒沢信子

事務局（2 名）

三枝主査、杉山主任

**<開会>**

**【部会長】**

ただいまより、第6回新宿区外部評価委員会第2部会を始めます。

本日は、取りまとめの作業になります。お手元にあります外部評価事業別チェックシートには、皆様からいただいた評価や意見が記載されています。チェックシートを基に部会としての評価の取りまとめを行います。

適宜、意見や補足的な説明をいただきながら、この取りまとめ作業を進めていきたいと思えます。

本日は、九つの事業について取りまとめを行いたいと思いますので、1事業につき15分程度のペースで進めていきたいと思えます。

取りまとめの進め方としては、まずは「適当である」と「適当でない」に評価が分かれている箇所を中心に、どちらの評価にするのか。「適当でない」とした場合には、どのような理由で適当でないと評価したかの意見をまとめたいと思えます。

「適当である」とした場合にも、強調する必要がある意見もあると思えますので、それについて、最終的に外部評価として残すかどうかということについて、この場でお諮りしていきます。紙面の関係もあり、いただいた意見が必ずしも全て盛り込めるということにはなっていませんので、委員のほうで特に残してほしいと希望する意見や、他の委員と同じような認識だということがあれば、意見として出してください。その点は最終的な文言調整の際に、残すかどうかの検討の基準とさせていただきます。

それでは、計画事業18の「学校施設の改善」です。私だけが「適切な目標設定」を「適当でない」という意見にしています。

まず、「適当である」とした委員の意見をお聞きしたいと思います。

【委員】

私は、「適当である」としながらも、運用の鍵である人や、運用の仕方に対する目標が入っていないということを書いています。

【部会長】

私はその点を少し強調して、「適当でない」としています。この評価としては「適当である」とした上で、委員の先ほどの意見か、私の意見である効果が測れるような指標についても検討してほしいという書き方にしましょうか。

【委員】

私はヒアリングのときから、設備を作った上で、それがしっかりと運用されているのかどうか気になっていたため、先ほどの委員にあった人の運用について一言書き加えてもいいと思いました。

【委員】

食中毒を抑えるという目的に対して、ハード整備だけを目標としているということを、まだ納得できない部分もあります。ハード整備は目標達成のための取組の一つという考えが抜け落ちていると感じています。

【委員】

整備数しか書けないと善意に解釈していますが、一步踏み込んで「その他意見」として述べておくべきであると思います。

【部会長】

機能・ハード面と、運用・ソフト面は一体的なものであるという意見だと思いますので、「適切な目標設定」の評価としては「適当である」としながらも、「その他意見」にその意見を盛り込みましょう。

あとの評価の視点は全て「適当である」という評価ですが、見返して、ここは強調しておきたいところがないようであれば、次の事業に進みます。

<異議なし>

【部会長】

それでは、計画事業19「エコスクールの整備推進」です。適切な目標設定に「適当でない」という意見があります。

まず、私は「適当である」と評価をしたのですが、適当であるとしながらも、このままでいいとは言えないという観点から、目的に照らして効果を上げているのかが見えにくいいため、事業の効果をより直接的に測るような指標を検討したほうがよいのではないかという意見です。

【委員】

運用面については、大事な視点だと思うのですが、目標設定にソフト面まで入れることはできるのでしょうか。

【部会長】

指摘としては重要であるものの、指標化を考えると、難しい面もあるのではないかとということですね。

【委員】

私は、「その他の意見」に、この四つの指標は、文部科学省の進める方向性であり、それを大事にすることは重要なのだが、文部科学省の指標をそのまま入れるのではなく、例えばLEDを設置することなど区の方向性も加えた目標設定をしてもいいのではないかとということを書きました。しかし、指標の設定が間違っているとは言えませんので、「その他の意見」に書くことが適当ではないかと感じました。

【委員】

以前から同じようなやりとりがずっとされていて、もう少し踏み込んだ意見を出せたら、もう少し変わるのかなという期待から適当でないとして、運用面・ソフト面の指標を入れてほしいという意見を書きました。。

確かに、ソフト面の指標化というのは非常に難しい部分があると思います。しかし、意見として出さないと、来年度以降も検討しますというだけで終わってしまうと感じています。

【委員】

「適当でない」と言い切るまでには、意見として難しいと感じています。適当でないという考えは、どの委員も感じているところだと思いますが、意見として表現するのは難しいと思います。しかし、改めて目的を見てみると、地域にとっての環境・エネルギー教育の発信拠点となると書かれていますが、本当にそんなことができているのか疑問です。

【部会長】

評価としては「適当である」とするものの、昨年度も同様の指摘がされているにもかかわらず、運用に関して、特色を持った指標がないというところですね。

ヒアリングの中でも、指標の中には、その点の具体的な前進は感じられませんでした。区として、もう少し独自性を発揮するような方向を、「今度こそ本当に」というニュアンスで、検討していただきたいという意見にしましょうか。

【委員】

計画事業14「学校の教育力向上」も、計画事業19「エコスクールの整備推進」も学校の教育課程にどう組み込んでいくかという、ソフト面や運用面について具体的なその成果を測れるような指標がないということを感じました。

【部会長】

意見の要素の一つとして、関連性の強い他の事業との関係も含みながら、運用面・ソフト面に関わる目標を入れることを検討してはどうかということですかね。

それでは、適切な目標設定の評価としては、「適当である」とした上で、運用面・ソフト面に関わる指標を検討すること、他の事業との関連性についても要素としてどこかに入れるという形でまとめるという方向ですかね。

あとの評価の視点は全て「適当である」という評価ですが、強調しておきたいという意見は

ありますか。

【委員】

ビオトープ、みどりのカーテンや天然芝生は維持管理していくのにとっても人手と手間がかかります。

そういうことから、維持管理をどのようにしていくのか、その運用面については内部評価の視点として必要ではないでしょうか。そういう意味では、他事業との連携で、例えばコミュニティ・スクールの中で、PTAとか地域の方たちと一緒にそれを捉えていくということが、必要でないかということ「事業の方向性」への意見として書きました。

【部会長】

ビオトープ等の維持管理についての意見はどこかに盛り込むということにしましょう。

「第二次実行計画期間における総合評価」についてはどうでしょうか。この中に意見として挙がっているメンテナンスの配慮の必要性を強調するというのは、今までの議論の中で出てきたことでもありますから、残すべきところの一つだと思いますが、他の委員から強調したいところはあるですか。

【委員】

学校によって取組状況にばらつきがあるという意見は入れておいてほしいと思います。学校によってばらつきはあるものの、児童・生徒が積極的に取り組んでいることは理解できました。

【委員】

ただ格好だけ整えるということであれば構わないのですが、設置したものを、地域にとっての環境エネルギー教育の発信拠点としようとするのであれば、もっと違う取組をしてもいいのではないかと率直に感じます。

【委員】

ばらつきがあるとすると、何かばらばらで、統一性がないという感じだけに見えてしまいませんか。

【部会長】

そうすると、「第二次実行計画期間における総合評価」には、メンテナンスへの配慮、地域への発信拠点ということ、理念だけではなくもっと具体的なものにしていくこと、さらに、一定の統一性を持ちながら、「ばらつき」という表現ではなく、「それぞれの学校の特色をいかす」という表現で盛り込んでいきましょうか。

<異議なし>

それでは、計画事業22「新中央図書館等の建設」です。全て「適当である」という意見で、意見が分かれているところはありません。

まずは、「第二次実行計画期間における総合評価」の意見を取りまとめていきましょう。

【委員】

新中央図書館等基本計画のコンセプトや構想は本当にすばらしいものであり、区民としても魅力的だと思いますので強調したいと思います。

建設に当たって、いろいろな属性の区民の声を適切に取り入れるようなプロセスも構築されるように、今後も期待したいです。

【部会長】

「協働の視点による評価」に、他の委員も、触れているところです。区民の声を適切に取り入れながら進めてほしいという意見については、「第二次実行計画期間における総合評価」と「協働の視点による評価」のどちらに入れましょうか。

【委員】

私は、「第二次実行計画期間における総合評価」に入れたほうがいいと思います。「協働の視点による評価」で書いているのを一緒に組み込んで、早稲田大学や関係機関、民間機関と一緒に進めていく、「そこにとにかく区民の声をきちんと入れてよ」ということを書き加えて、全てこの中央図書館の建設に関しては肯定的な意見ばかりですので、希望としてそれを入れるという方向でまとめていただければいいのではないかと思います

【部会長】

それでは、「協働の視点による評価」については、もう少し具体的に区民の声を適切に取り入れて、協働の視点というのをちゃんと留意して進めていただきたい、そういうことを希望しているという書き方にするということですね。

【委員】

そうですね。

【部会長】

わかりました。

そのほか、この事業について、「適当である」の理由で強調されておきたいところ等はありませんね。

<異議なし>

【部会長】

それでは、計画事業23「地域図書館の整備（落合地域）」に進みます。全て「適当である」という意見です。

【委員】

整備に当たって、区民向けのワークショップを実施したことは、とても良い取組の一つだと思います。

【部会長】

他の委員からも地域懇談会や図書館運営協議会を開催しているなどの意見がありますね。

また、地域性を出す姿勢も見られたという意見も併せて書かれています。ヒアリングでも中央図書館と地域図書館の役割分担について説明がありました。位置付けが明確で、工夫も見られるため、その点は評価できるという意見ですね。

【委員】

部会長の意見を中心にする形でいいと思います。

【部会長】

では、「第二次実行計画期間における総合評価」については、私の意見を中心にして各委員の意見を盛り込みながらまとめるということにします。

他に、「協働の視点による評価」や「その他意見」に意見を出している委員がありますが、強調したいところがありますか。

【委員】

「協働の視点による評価」に書かれている意見で、区民向けワークショップのことについて触れられているので、残した方が良いかなと思います。

【委員】

ワークショップを開催して終わりということではなく、そこで挙げた意見が、どう図書館に反映されているのか伝える場を作ってほしいということです。

【部会長】

この意見が「協働の視点による評価」に書き込めることなのかどうかというのは、判断があるところでしょうが、提案の要素が強いので、載せられるのであれば、「その他意見」に記入するというにしましょう。

<異議なし>

続いて、計画事業24「図書館サービスの充実（区民に役立つ情報センター）」です。「適切な目標設定」、「総合評価」と「第二次実行計画における総合評価」に「適当でない」という意見があります。

所管課も認識しているように、レファレンス件数のみの目標設定で本事業の目的の達成度を測ることができるのか、疑問が残るため、しっかりと見直してほしいという趣旨の意見が多いです。

多面的に事業評価を把握するための目標設定の改善が必要となっていて、内部評価でも改善が必要と認識しており「適当でない」と評価している。外部評価としては内部評価は適切であるという評価になると思います。

本事業は第三次実行計画において、計画事業88「図書館サービスの充実（区民にやさしい知の拠点）」で実施されます。目標としてレファレンス件数、来館者数、図書館資料貸出点数、ホームページアクセス数を掲げており、指標を四つに増やしていますので、それを踏まえてご意見をいただきたいと思います。

役に立つ図書館となるための指標設定という意見がありますが、この視点から見てどうでしょうか。

【委員】

こういう視点も必要ではないだろうかということで意見を書き加えていいのではないのでしょうか。

【委員】

少し指標からは外れてしまうのですが、図書館の入口を入ったところに新聞や雑誌が多く置

いてあるコーナーがあり、高齢者の方や特定の人がずっとそこに滞留しているようなイメージで、親と子どもで楽しみながら行くという雰囲気ではない印象があります。

【委員】

図書館が空間として、区民が足を運びたいと思える空間であるかどうかですね。

【委員】

第三次実行計画を見ても指標には空間のことがあまり入っていないと思いました。結局、来館者数や貸出点数などは、目標としてどんどん積みあがっていきますので、効果として測るものではないと思います。

【部会長】

今の議論を踏まえると、「適切な目標設定」については、評価としては「適当である」とする。第三次実行計画においては指標の見直しもされているので、役に立つ図書館となるような視点に照らして適切な指標となっているのかということについて、引き続き検証していくことを期待するというような趣旨の書き方にしましょうか。

「事業の方向性」については、「適当である」とした上で、空間への配慮を引き続き、行ってほしいという期待をするということにしましょうか。

【委員】

空間への配慮がとても大事であると同時に、そこで働く職員がどうしたいと思っているかということが大事だと思います。

【委員】

区民向けのワークショップも大事だと思いますが、あわせて、現場の職員が、本当にこの配置でいいのかとか、この空間でいいのかという職場環境についての意見を吸い上げる必要があるのではないかと思います。

【部会長】

それでは、「事業の方向性」にある魅力的な空間であることが大切であるという意見を引用し「その他意見」に記入する形にしましょうか。

また、「その他意見」のところにある委員の指摘は、私も全体を通じて、どこかで強調する必要があると思っていました。ただ指標を設定して数値を測るだけではなく、目標設定を達成しようとすることによって質的なところを自主的に高めていくというような指標の設定の仕方というのも重要ではないかと思います。この点もどこに入れるかを考えながら「総合評価」と「第二次実行期間における総合評価」も見解が分かれていますので議論していきたいと思います。

まず「総合評価」についてどうでしょうか。

【委員】

本事業については、内部評価で達成度が低い、改善が必要と素直に認めています。中央図書館もビジネス情報支援相談会の実施や商用データベースの導入など、いろいろな事業展開を実施してきたことについては「計画どおり」であるものの、反省も込めて次につなげたいという

内部評価ですので、「適当である」と評価してもいいかなと思いました。

【委員】

本事業は目標設定に問題があったと考えています。レファレンス件数のみの目標設定で、その目標の成果がほとんど上がっていないため、達成度が低いと言わざるを得ない。内部評価でも目標設定が良くなかったことを認めていますので、「適当である」としたい思いもあります。

一方で、ビジネス情報支援相談会の実績等についての具体的な説明がなかったので、「適当でない」と評価して、議論をしてみてもよかったのではという思いで評価しました。一生懸命実施していることは認めていますので、「適当である」と評価を変えることについて、異論はありません。

【部会長】

「第二次実行計画期間における総合評価」も意見が分かれていますので意見を伺いたいと思います。

【委員】

私は、以前の内部評価から同じような議論があるのに、改善されないことにひっかかりを感じます。

しかし、昨年度の外部評価委員会では総合評価を「計画どおり」とする内部評価に対して、「適当である」と評価していますので、昨年度の内部評価シートの評価の理由がほとんど同じ中で、今年度、「適当でない」という評価をするには、理由が弱いかなと思いました。

【部会長】

評価をする上で事務局に伺いたいのですが、指標の見直し等というのは、実行計画期間内にできるものなのでしょうか。例えば、本事業は第二次実行計画から第三次実行計画に移るタイミングで指標も変えていますが、第二次期間中に指摘されて同じ実行計画期間中に対応できるものなのでしょうか。

【事務局】

実行計画のローリングという取組が毎年度実施されていますので、実行計画の指標の内容や金額も含めて見直すことはできます。

しかし、実際には第二次実行計画の中だと、抜本的な改善というのは、やりにくいということがあられるかもしれません。そのため、新たな実行計画に変わるタイミングで抜本的に指標を追加したということは考えられます。

【部会長】

では、数年にわたって指摘されているにもかかわらず、目に見える対応がされていないように見えるという点は、指摘できそうですね。

【委員】

しかし、昨年度の外部評価の意見が第三次実行計画に反映されたということも言えると思います。

【部会長】



今の議論を踏まえて「適当である」か「適当でない」か決めたいと思いますがいかがでしょうか。

【委員】

「総合評価」と「第二次実行計画期間における評価」の「適当でない」という評価を「適当である」と変えたいと思います。あわせて、新しくできた指標についても引き続き検証してほしいという意見は入れてほしいと思います。

【委員】

ビジネス情報支援相談会の成果については具体的に明らかにしてほしいということは入れたほうがいいのではないのでしょうか。

【部会長】

それでは、そのように意見を盛り込みましょう。他に本事業について強調されたいところがありますか。

【委員】

来るのを待つことが前提になっている部分を打破してほしいという意見は残してほしいと思います。

あと、「その他意見」にあるIT化推進やWi-Fi環境充実のため支援というところはどこかに入れてほしいと思います。

【部会長】

IT化やWi-Fi環境の推進は、今も取り組まれているが、その実質化や充実については、引き続き検討してもらいたいというような意見かと思いますので、どこに盛り込むかは、部会長と事務局で決めたいと思います。

本事業に対する評価をまとめていきたいと思います。まず、「適切な目標設定」は、「適当である」とした上で、第三次実行計画で定められた新しい指標が、目的に照らして適切なものであるかどうか、引き続き検討を続けてほしいということを書き添えます。

「総合評価」と「第二次実行計画期間における総合評価」については、いずれも「適当である」という評価とする。ただし、ビジネス情報支援相談会の実施成果等については、実質的なものにするというような視点から、相談会の実施等に関する目標設定も考えてはどうかという意見を出すということですね。

最後は「第二次実行計画期間における総合評価」を「適当である」とした上で、その理由を付すかどうかと、付すとするとどのようにまとめましょうか。

【委員】

具体的な取組は評価しているという意見は必要だということと、ただし、改善の余地があるということを入れるのがいいと思いました。

【部会長】

私も事業自体は評価するが、もう少し頑張してほしいという形にしましょうか。

委員の意見としてレファレンスの案内表示を「？」マークに変え分かりやすくしたと書かれ

ていますがどのような趣旨でしょうか。

【委員】

ヒアリングで、レファレンスという言葉が分かりにくいいため、「？」マークつけたカウンターを設置して司書を常駐させ、調べ物案内人を分かりやすく表示したという説明があったので、こういう取組は評価できると思いました。

【部会長】

レファレンスという言葉が分かりやすくなるように工夫しているという点を評価できるということですね。

それを踏まえると、少し抽象的になってしまうかもしれませんが、「周知方法に工夫が見られる」といった表現で意見としていかしていきましようか。

あとは、「事業の方向性」です。何か強調しておきたいところがありましたら意見を伺います。

【委員】

図書館サービスやIT化などは数値化することが難しい分野であり、目標設定にも悩んでいるところも相当あると思います。その中で検討や改善をしながら、継続して進めていかなければならない事業であると思い意見を書きました。

【部会長】

IT化については、先ほどのやりとりの中でありましたので、そこに含めましようか。

それから、ヒアリングのとき、広報をもっと充実したらいいという意見がありましたので、「事業の方向性」に引き続き広報力の強化も進めてほしいというような期待表明をする形で、盛り込みましようか。

【委員】

広報力の強化だけではなく、各図書館の特色をいかした広報を更に進めたほうがいいというような表現のほうが、趣旨が伝わると思います。

【委員】

私は、部会長の郷土資料の提供など地域情報の拠点になるという意見は、おもしろいと思いました。

【部会長】

広報力を強化していくというときに、単に一律の情報を図書館全体として周知していくのではなくて、各図書館の特色を伝えるような形で周知してほしいということですね。その各地域や図書館の特色の中で、例えば、郷土資料などの地域情報の拠点としての機能を盛り込むような形で広報力の強化というのも、手段改善の具体的な中の一つとしてあり得るのではないかなという書き方で「事業の方向性」にしたいと思います。魅力的な空間づくりについては、「その他意見」に項目を入れかえて、そこでいかしていくという形にいたしましようか。

<異議なし>

【部会長】

それでは、計画事業25「子ども読書活動の推進」です。全て「適当である」という意見です。強調したい意見がある委員は発言をお願いします。

【委員】

子どもの事業でよく感じるのですが、事業の主な対象が区立保育園だけで、認証保育園、保育ルーム、保育ママなどには事業の効果があまり届けられていないということがあり、子どもが過ごしている場所に広く届くように務めてもらいたいということを強く感じました。この事業の団体貸出についても同様で、区立園以外にはあまり普及できていないということでしたので、「総合評価」に意見として出しました。

【部会長】

直接委託等を受けていない他の保育施設等が、自主的に協力するというような方策を考えてほしい、区立園以外にも取組を強化してほしいという意見だと思います。

【委員】

区から積極的に、団体貸出という取組がありますよと働き掛けていったほうが、この事業の効果が上がっていくと思います。働き掛けも、チラシを1枚郵送するような形になっているのであれば、区が直接訪問したりして、推進活動を積極的に行ってほしいと思います。

【部会長】

「総合評価」にある団体貸出についての意見は、「効果的・効率的な視点」の中で、「適当である」と評価しながら、ただしということで、意見を入れるということにしましょう。

ほかに、強調しておきたいということがあれば、意見をお願いします。

【委員】

私が「協働の視点による評価」で、例えばビブリオバトルという取組を紹介していますが、一つのアイデアとして記しておきたいなと思って書きましたので、残せるようであれば、「その他意見」に入れていただければと思います。

【委員】

ビブリオバトルについては、私もチェックシートを見て初めて知ったのですが、例えば、ビブリオバトルのような遊び感覚で図書に親しめるような機会をつくっていただきたいという表現であれば残せるのではないかと思います。

【部会長】

次に、「第二次実行計画期間における総合評価」を「適当である」とした上で、評価の理由をどうするかについて議論していきたいと思います。

【委員】

「第二次実行計画期間における総合計画」についてではないのですが、「事業の方向性」のところにある、自主的な読書活動を促すことを目的とする事業であるため、その方法の模索が必要であるとする部会長の意見が重要だと思います。

【部会長】

この意見は、ヒアリングのときに、子どもたちは本を紹介してもらおうより、紹介してあげる

ほうが読書に対する主体的な関心が高まるという説明が印象に残っていたため記入しました。

他の委員から「第二次実行計画期間における総合評価」について意見はありますか。

【委員】

本事業の五つの目標設定は、到達できていないと言えできていないのですが、ほぼ達成していますので、「計画どおり」と評価したいと思いました。

部会長がとても具体的な意見を書いているので、それも中心にして組み立ててはどうでしょうか。

【部会長】

それでは、「第二次実行計画期間における総合評価」は、私の意見を大筋として、平成28年3月に策定された第四次新宿区子ども読書活動推進計画など、次のステップに向けた取組を着実に進めてもらいたいという期待を表明する。全体としては、評価できるようなものであるというまとめ方にしたいと思います。

<異議なし>

続いて、計画事業15「特別な支援を必要とする児童・生徒への支援」に進みます。全て「適当である」という意見です。

まずは「第二次実行計画期間における総合評価」についての意見を出してください。

【委員】

まず、まなびの教室が平成28年度から全校でスタートしたことはすばらしいと思っています。

次に、学校に対しての支援だけではなく、もう一步踏み込んだ保護者に対するサポートや支援をしたり、地域や他課と連携が必要なのかなと思いました。

また、計画事業9「保護者が選択できる多様な保育環境の整備」のヒアリングの説明で、保育園に子どもを預ける親も多国籍になっている中で、私立保育園や保育ルームなど区立保育園以外の現場において、外国籍の保護者とのやりとりまで、追いついていないのだという印象を受けました。しかもそれが、すこし問題だと思ったのが、「そういった通訳を派遣してくださいという声は現場から上がってきていません」ということだったので、現場レベルの細かい声を吸い上げ切れていないのだという印象がありました。同じようなことが本事業でも起きていないか心配しているところです。

【委員】

私もまなびの教室を全校に配置したということについては高く評価したいと思っています。

区が予定した事業を実施することについての目標値はクリアできているわけですが、一方で具体的に子ども達や保護者にどのような効果があったかについては評価が難しいと思っています。

例えば、日本語学級から通常学級への円滑な移行ができていないという実績が上がってきていますが、その中身を見ると、こういった子どもは非常に流動的で支援が難しいという側面があります。年度途中で日本に来て、いつの間にか故郷に帰ってしまうとか、定着できないというような現実があり、それを成果指標に乗せるというのが難しいことなのだと思います。

また、外国籍の保護者が英語をしゃべれない場合もありますので、英語だけではなく多国籍語も必要になります。とても厳しい現実がある中で、区は非常に頑張っていると評価したいと思います。

【部会長】

それでは、今、委員がまとめていただいたような全体的な認識を持ちながら、地域との関わりを密にしていくことや、現場レベルの意見にならない声を吸い上げてられるような工夫を検討してほしいということですね。

【委員】

特別な支援を必要とする児童・生徒の保護者に対して必要な支援が届いていないのではないかと思います。

【委員】

子どもが育つ環境は学校だけではないと思います。特別な支援を必要とする児童・生徒に対する支援の輪がひろがってほしいと思いますので、少なくとも保護者を含めた形での事業ができれば、より効果的ではないかと思ったところです。

【部会長】

細かい点になりますが、主に日本語を母語としていない対象者についての意見ということですね。

不登校については、どうでしょうか。

【委員】

特に中学生の不登校は原因は様々で非常に対応が難しいところがあって、そこから引きこもりが始まっているという大きなきっかけにもなっています。

【委員】

私は今後の取組について家庭と子どもの支援員やスクールソーシャルワーカーを中心にした包括的支援体制を整備していくことは適切だと評価しました。

【部会長】

スクールソーシャルワークとの包括支援体制については他の委員も指摘しているので、二人の意見を合わせる形で盛り込みましょう。

あわせて、「協働の視点による評価」に日本語サポート指導についての、シニアのボランティアの活用が意見として入っていますので、アイデアとして盛り込むということにしたいと思います。

<異議なし>

【部会長】

計画事業16「学校図書館の充実」は、意見が分かれているので、時間の関係上、意見の分かれていない計画事業20「地域協働学校（コミュニティ・スクール）の推進」を先に取りまとめて、計画事業16については次回ということにしたいと思います。

まず、「第二次実行計画期間における総合評価」のところ、皆様「適当である」とされてい

ますが、その意見として、どれを中心にまとめるかということになります。

【委員】

私は地域協働学校を通して学校を地域の中で取り戻していく動きをつくれるのではないかと期待を寄せています。

【委員】

私は、学校、家庭、地域のパートナーシップという言葉を入れました。その三者のうちの誰かが負担感を持つのではなく、しっかりとパートナーシップを持って、互惠関係を構築した上で進めていかなければならないという思いを込めて意見を書きました。

【部会長】

それでは、「第二次実行計画における総合評価」については、三者のパートナーシップが構築されたという意見にさきほど委員からあった今後も期待していくという意見も含めましょう。

「その他意見」にも三者のパートナーシップの構築が書かれていますが、重要な点ですので残すことにしましょうか。

【委員】

私が「協働の視点による評価」に書いた意見です。地域協働学校運営協議会が開かれるのが平日昼間だと、働く親が参加できない状況も生まれると思いますので、意見交換できる機会を、なるべく平等に設定するような配慮が必要だと思います。

もう一つは地域協働学校の対象として養護学校が入っていません。養護学校はかわりが難しいと思いますが、導入に向けてのいい機会なのではないかと思います。

【部会長】

今の2点については、いずれも大切な点だと感じました。特に1点目、いろいろな生活時間帯がある中で、それに配慮しながら参加を促していくことに、引き続き留意してもらいたいという点ですね。意見としてどこかに残してほうが良いと思います。

【委員】

地域協働学校の委員は例えば小学校の場合は10名以内で、地域住民、学校関係者、PTAの方などで構成されています。会議を開催するに当たっては、参加できる保護者にも配慮されていますので、「参加しやすいような、お互いの合意のものの時間設定をしてほしい」というような表現の方がいいかと思いました。

養護学校については、どう考えているのかということをやむを得ず聞いてみてもいいと思います。

【部会長】

地域に開くことによって、いろいろな考えを持った方がいますし、あえて含めていないということも、考え得る部分ではあります。例えば、手厚い人員配置になっていますので、コスト的な観点から問題視するような意見が高まってしまって、事業の存続がなかなか難しいという状況になったりすることも考えられます。どれくらい開けるかということは、模索しているのではないかと思います。

ただ健全な形で開いていくということは、望ましい方向性だとは思いますが、地域協働学校の取組を養護学校のどれくらいまで適用できるのかについては、「その他意見」に今後も検討していただきたいという表現で盛り込みましょう。

今まで出た意見を十分に踏まえながら、文言は事務局と調整させていただきたいと思います。  
＜異議なし＞

【部会長】

ありがとうございました。

＜閉会＞